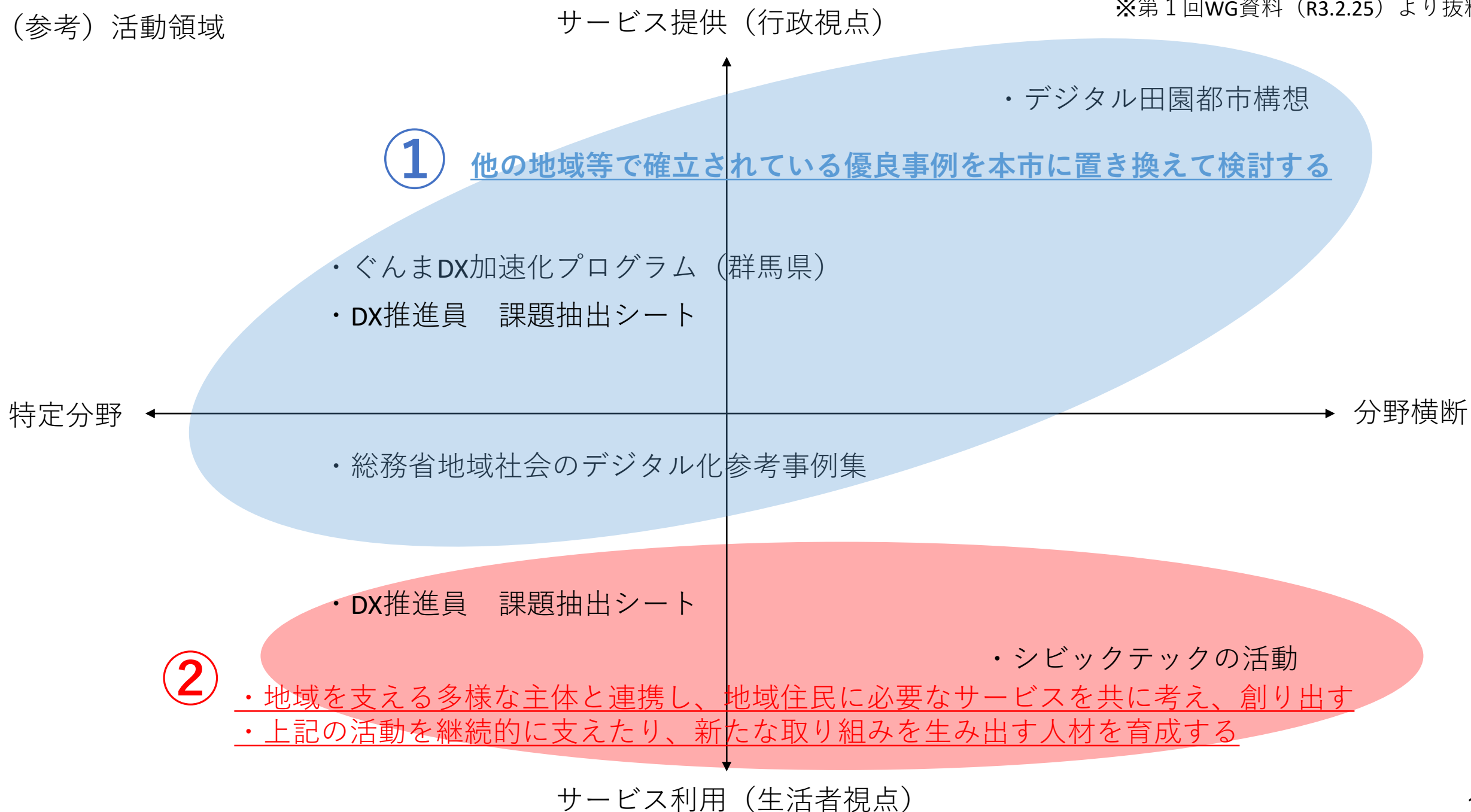


WG名	⑫地域社会のDX推進WG
-----	--------------

項 目	内 容
①実現したい未来	地域を支える多様な主体（市民、企業・団体、行政）が、デジタルにより立場や世代の垣根を越えてつながり、生活者の価値やユースケースを起点とした新しい発想で、地域住民の生活をより豊かにしたり、地域が抱える課題を解決できること。
②背景・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化など社会構造が大きく変化し、住民ニーズや地域課題は、多様化・複雑化している。 ・スマートフォンの普及や情報通信技術の進展により、場所や時間の制約を超えた活動や、双方向のコミュニケーションが可能な社会が形成されつつある。
③課題	実現したい未来に向かう具体的な道筋を鮮明に描くことができていない。
④原因	市役所は、多様な主体と協働しながら、地域が直面する課題を発見したり、解決していくための知見やノウハウを十分に有していない。
⑤解決策	「既存の行政サービスや地域社会のあり方をデジタル化された世の中に合った形に見直し、再構築する」という一連のサイクルを地域と協働しながら試行・実践する。
⑥得られる効果	新しい地域のつながり（共助の再構築）、住民の利便性向上、新たなビジネス創出 等
⑦R3年度取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の洗い出し ・他団体の取り組みやサービス事例の共有
⑧今後の展開 （スケジュール）	地域での試行（外部人材との協働）

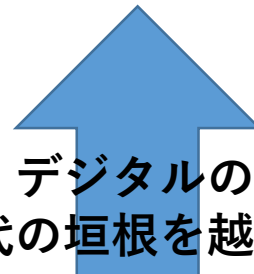


これまで：業務改善

- ・ サービス提供側（市役所）が起点
- ・ 既存の仕組みや特定の組織で対応
- ・ 他の地域の優良モデルやサービスの実装

これから：価値創出

- ・ 生活者の価値やユースケースを起点
- ・ 多様な主体（市民、企業・団体、行政）との分野横断の協働
- ・ 共に考え、共につくる
※共助のあり方を再定義



デジタルの力
（立場や世代の垣根を越えてつながる）

①

②

①業務改善

②価値創出

病院案内
AI

通報が多

119番通報と受けたら、傷病者搬送の手配
情報伝達が多すぎる。

110、119に電話して
何を話したらいいかわからない

火災発生時のマニュアル
くるが
消火のマニュアルがない

Push通知
機材の期限

事務が多い

対象の規模により、
消防計画を作成したり、
紙ベースで保管している。

火災調査
の立入検査

報告書
と軽微減

人が少ない(職員)

異動が多い

内部事務
DX

消防場不夜で
月末の石目認識作業と通知
しているが、毎日同じ作業

出退勤システムで
職員の申請状況も
確認しているが、ミスが多い。
(所属長も件数が多いので見直し)

書類の提出により、
同じ内容の問い合わせが
多い。

年次調整処理
全職員の申請と確認して、
PCに入力している

テレワークが進まない

育休が取りづらい

職員の消防団
でできる？

農家の長男は
消防団

デジタルデハバ
(消防)

※この他、以下グループで意見出しを実施

・本庁

①道路管理課、農村整備課、公園緑地課、
水道整備課

②環境森林課、ごみ減量課、廃棄物対策課

・4支所（大胡、宮城、粕川、富士見）

今後の展開（地域での試行）

- ・対象領域の設定
- ・ゴール設定
- ・具体の道筋を明確化

①
企画構想

②
概念検証

- ・目的達成が実現可能か判断するための検証（机上）

- ・地域での自走

④
事業化

③
価値検証

- ・得られる価値の最大化を判断するための検証（モデル実施）

※色塗り部分：外部人材との協働領域